

(科目コード : 2001120003CC)

【改訂】第15版(2017-02-24)

【科目】倫理

【科目分類】一般科目 【選択・必修の別】必修 【学期・単位数】通年・2単位

【対象学科・専攻】環境都市 3年

【担当教員】前期：齋藤 和義
後期：齋藤 和義

【授業目標】

「倫理」という科目は、一人ひとりが「よく生きること」について思考する科目であることを認識し、自己、他者、社会との関わり方などについての理解を深めることができる。

現代人にも深い影響を与えてきた先哲の思想を学ぶことを通して、普段の日常ではあまり考えない哲学、倫理、宗教、思想などのテーマについて興味・関心を持つことができる。

資料としての先哲の書物やその解説書などを読み、それについての思索を深めたり、周囲の人たちとそうしたことについて対話したりすることができる。

「倫理」で学んだことを使って、現代の諸課題についての自分の意見をまとめ、それを表現することができる。

【教育方針・授業概要】

・授業では、現代に生きる人間として、現代社会で求められる倫理的な諸課題を取り上げ、それを、考える材料を提供しながら君たちと一緒に考えていきたい。こちらから質問をし、また君たちからの質問も求めたい。

・ノートは必ず用意し、板書等必要なことを書き留めてほしい。またプリントをファイルしてほしい。

・教材としては、前期は自己・他者についての心理学から始め、教養ということを考察し、その後、ギリシア哲学、キリスト教を扱う。

・近代西洋哲学を中心に、すなわちデカルト、カントなどの大陸系の哲学者の思想と社会契約説や功利主義などイギリス系の思想を扱う。

・現代思想としては社会主義と実存主義を主に取り上げる。

・従来と異なり、次の学年での「哲学」がないので「哲学入門」ということも意識して授業する。

【教科書・教材・参考書等】

教材：『テオーリア 最新倫理資料集』：第一学習社

その他、副教材としてプリントを適宜配布

参考書

〔哲学倫理入門書として薦めたい本〕

岩田靖夫『ヨーロッパ思想入門』（岩波ジュニア新書）

岩田靖夫『いま哲学とは何か』（岩波新書）

岩田靖夫『よく生きる』（ちくま新書）

竹田青嗣『哲学ってなんだ』（岩波ジュニア新書）

高橋昌一郎『哲学ディベート』（NHKブックス）

小熊英二『社会を変えるには』（講談社現代新書）

ラッセル『哲学入門』（ちくま学芸文庫）

橋爪大三郎・大澤真幸『ふしぎなキリスト教』（講談社現代新書）

西研『ヘーゲル・大人のなり方』（NHKブックス）

〔古典〕

プラトン『ソクラテスの弁明』『饗宴』などソクラテス対話篇（岩波文庫、新潮文庫）

デカルト『方法序説』（岩波文庫）

ラッセル『幸福論』（岩波文庫）

ベルクソン『笑い』（岩波文庫）

ミル『自由論』（光文社古典新訳文庫）

【授業形式・視聴覚・機器等の活用】

講義形式で進める。

【成績評価方法】

[前期]中間試験：40%、期末試験：40%、課題点（ノート、レポートなど）：20%

[後期]中間試験：40%、期末試験：40%、課題点（ノート、小論文など）：20%

【本校の学習・教育目標】

(A-1) 人文社会系の科目の学習を通じて、人間文化と社会生活について理解する。

【授業計画】（倫理）

回数	授業の主題	内容	レポート	宿題
第1回	イントロダクション	授業の方針、「倫理」で学ぶこと、学び方		
第2回～第4回	自己と他者	現代における青年期、青年期の心理的課題と心の構造、欲求と青年期、教養とは何か		
第5回～第7回	思想の源流（ ）	ギリシア思想～ 自然哲学とソクラテス プラトン		
第8回	中間試験			
第9回～第11回	思想の源流（ ）	ヘブライズム（ユダヤ・キリスト教の思想）	ノート提出	
第12回～第15回	西洋近代思想（ ）	デカルト ホッブズ・ヒューム	レポート提出	
第16回～第22回	西洋近代思想（ ）	カントの道德論 ベンサム、ミル～功利主義 ヘーゲル		
第23回	中間試験			
第24回～第25回	現代思想（ ）	キルケゴールの思想	小論文	
第26回～第27回	現代思想（ ）	マルクスの思想		
第28回～第30回	現代思想（ ）	ニーチェの思想	ノート提出	